

# 生かされて

## ■ 楽曲データ

歌詞：富江宗八 作詞

楽曲：輪田敬子 作曲

発表：浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1979年

初演：—

初出：『生かされて』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1979年

管理番号：M0450

## ■ 創作の経緯

仏教音楽研究所の第3回創作公募（1978年度）の入選作品のひとつ。《心にひらく花》とともに発表された。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『生かされて』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1979年

比較資料：—

校訂の詳細：底資料と、『仏教讃歌—歌集』（旧版）等で知られる版とは、旋律に異なる点があった。普及状況に鑑み、9・15・35小節目については、現行の旋律を採用。

## ■ 解説

「生かされて生きている」

これは、仏教讃歌の歌詞にたびたび登場する言葉です。日頃、仏教讃歌に親しんでいらっしゃる方であれば、《生きる》や《やさしさにであつたら》などの作品を思い出されるかもしれません。しかしながら、消費文化が広く行き渡った現代社会において「生かされて生きている」という実感を持つことは、今やとても困難な状況になっているようにも思えます。

仏教讃歌《生かされて》は、優しいメロディーの歌いやすい曲ですが、何度も口ずさむうち、「生かされて生きている」ことが心に刻まれていくような力をもった曲です。

## ◆ 詞の内容について

四季折々の自然を描写しながら、「生かされて生きている」素晴らしさを歌っています。中ほどに「ほらね」という語りかけの言葉が置かれ、結びの「みんな みんな／生かされて／みんな みんな／生きている」に集約されるように

なっています。この「ほらね」を皆さんはどのように受け取られるでしょうか。いったい誰に対して発せられた言葉なのでしょう。

例えば、こういう見方ができるかもしれません。

「ほらね」は気づきの言葉なのです。見慣れた日常の風景に、ある日「生かされて生きている」いのちの出現をみた喜び。「生かされて生きている」のが、まさにわが身であることを実感したときの充足感。そして自然がそうであるように、生かされているのは「わたし」だけではなく「みんな」なんだということ。

この言葉は、胸の奥で深く納得したときにふと漏れた、つぶやきのような気がします。たくさんの「みんな」に知らせたいつぶやきです。いかがでしょう。皆さんも一度「ほらね」を軸に、この歌詞を読んでみてください。

#### ◆曲について

ゆるやかなメロディーが次々と繰り出され、全体として大きなフレーズを構成しています。

この曲は、主なメロディーが八分音符のアウトタクト（メロディーの出だしが前の小節の途中から始まること）と、2分音符の組み合わせでできています。特に1拍目に2分音符がくることが多く、この2分音符を間延びせず、いかに豊かに響かせられるかが、ポイントになっています。気持ちよく歌える曲なのですが、その辺りを表現するのは少し難しいといえるかもしれません。

#### ◆作詞者・作曲者について

作詞の富江宗八（1917生、没年不詳）は浄土真宗の門徒で、当時は京都府在住。作曲の輪田敬子（1956～）は、大学生だったそうです。

#### ◆演奏のヒント

歌詞に書かれた春夏秋冬の情景を思い浮かべ、それぞれのニュアンスの違いを表現できるように、声の質や発音に気を配って歌ってください。

①最初の言葉「春」の「は」は、子音を意識して発音してください。ただし、この8分音符はアウトタクトですから、次の小節の1拍目に滑り込ませるようなつもりで、ゴツゴツしないように。

②フレーズのひとつめの2分音符は、伸びやかに推進力を持って、次の2分音符はフレーズの終わりですから、少し押さえ気味にするときれいにまとまります。

③フレーズごとに音が上がっていくので、気持ちも盛りあげていきます。11・12小節目で一区切りつきます。

④7小節目の「花」、9小節目の「春」の音程に気を付けて。ふわっと跳躍しましょう。

⑤「ほらね」は話すような感じで、他の部分と対比させます。

⑥15小節目は、シンコペーションのリズムに気を付けて。27小節も同様です。

⑦28～30小節目の「みんな みんな」は、音程が難しいですが、張りのある声で力強く歌ってください。

⑧「生かされて」と「生きている」の間に、「みんな」が2回入ります。「生かされて生きている」と、歌詞がひとつながりになるように、意識しましょう

◆楽譜について

二部合唱版が、『讃歌集 二部合唱』第7巻に掲載されています。

解説執筆：石川紀久子（本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室] 委託研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 79（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第206号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.